

江戸川大学学生新聞

THE EDOGAWA TIMES

第117号

2022年8月26日(金)

取材/編集: 学生記者クラブ
発行: 江戸川大学企画総務課

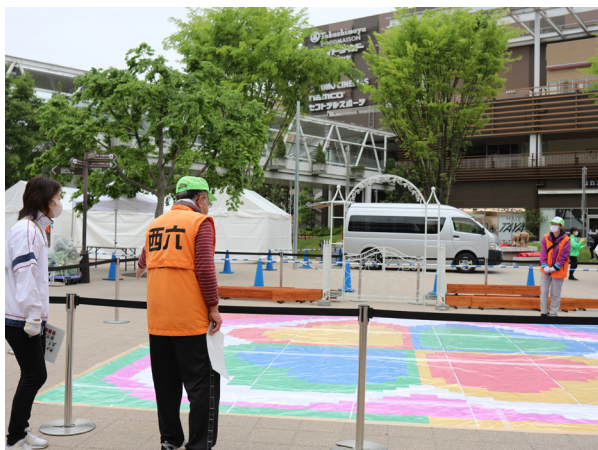
花の祭典「流山グリーンフェスティバル」開催

今年のテーマは「ハート」

流山の町に大きな四葉の花
絵が咲いた。5月4日(水)、
おおたかの森駅南口都市広場
で、花の祭典「流山グリーン
フェスティバル」が3年ぶり
に開催された。

今年のテーマは「ハート」。
そのテーマにふさわしい4つ
のハートが連なっている四
葉のクローバーが花絵のデザ
インに選ばれた。デザインを
考えたのは江戸川大学メディ
アコミュニケーション学部情
報文化学科3年の森裕樹さん
(廣田有里ゼミ)だ。約3カ
月を費やして入念に組み上げ
た。四葉のクローバーの花言
葉には「平和」と「幸運」が
ある。「この花絵を通してフェ
スティバルに訪れた人に幸せ
と平和が訪れてほしい」と森
さんは流山市と世界の平和を

土屋薫ゼミと廣田有里ゼミ、地元自治会の皆さん



原寸大に印刷した森さんのデザイン画



デザイン画に指定された鉢を並べていく

願いながら花を並べた。

市民を愛し愛される町へ

今年で17年目となる流山グ
リーンフェスティバル。過去
2年はコロナ禍により開催さ
れなかった。特別な思いを
持って参加している流山市役
所のマーケティング課長・河
尻和佳子さんに話を聞いた。
河尻さんがフェスティバル
に関わるようになったのは14
年前。当時からグリーンフェ
スティバルは市民の憩いの場
となっていた。

流山市には「流山グリーン
チェーン戦略」というものが
ある。2005年のつくばエ
クスプレス開通がもたらした

地域の発展は、緑の減少につ
ながった。「開発で失われた
緑は開発で取り戻そう」とい
う取り組みがこの戦略だ。商
業施設の前に木を植えたり、
家を作る際に高い木や生垣
を作ったりすることを奨励し
ている。木が生い茂るよう
になるには長い年数がかかる。
多くの市民にこの計画を知っ
てもらうために流山グリーン
フェスティバルが始まった。
江戸川大学もこの計画に賛
同し、イベントが初めて開催
された2005年から、共
に、心から愛されるイベン
トになってくれたらうれしい
と流山の未来に思いをは
せる。

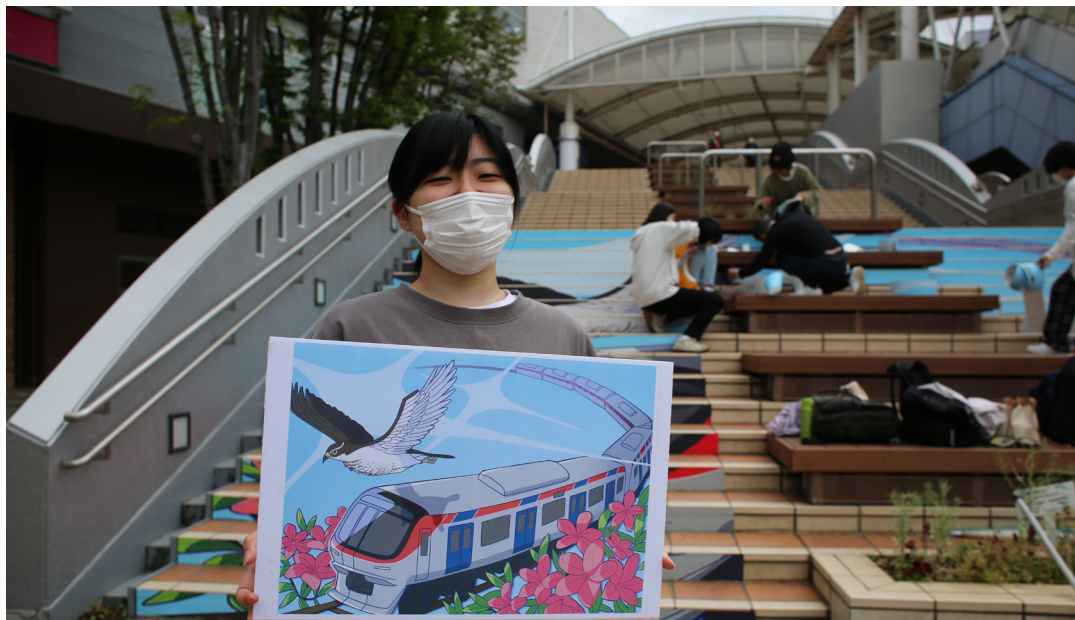
デンウィーク「流山グリーン
フェスティバル」というイメ
ジが定着している。フェス
ティバルを見守ってきた河尻
さんは、「流山の外に行かな
くてもこんな楽しいことがあ
るんだということを市民の
皆さんや、ほかの地域の人に
も知ってもらうことが大切だ
と思います。流山の良さとい
うか、町の人が、この町大
好きって心から言ってくれるよ
うな町にしたいです。このイ
ベントが町の人たちと共に生
まれていくようにしたいです」

(撮影・文: 吉田妃麻里)

流山の象徴題材にアート 学生運営エド・アドが設置

コロナ禍によって3年ぶりの開催となった「流山グリーンフェスティバル」で、江戸川大学の学生が運営する仮想

流山おおたかの森駅前南口



デザインを担当した武居さんと、階段の蹴込み板にシールを貼る社員たち

の階段に作られたステップアートは、エド・アド社員でマス・コミュニケーション学科2年の武居楓さんがデザインした。テーマは『都心に一番近い森』であり、その中で都心と流山市をつなぐくばエクスプレスと、市の鳥「オタカ」と市の花「つつじ」を題材にした。見る人に参加してもらえよう、間違い探しの仕掛けもある。武居さんは「流山市でやることで特別感と流山らしさが出るように意識しました。また小さい子や家族連れに見やすいようなポップを意識しました」と説明した。

準備には様々な困難があったという。ステップアート実施の決定が3月末で、印刷などを考慮すると4月8日には絵を完成させる必要があり、連日のミーティングを重ね、一気に仕上げた。

3年ぶりの開催とあって、マス・コミュニケーション学科3年の沓掛真奈さんはエド・アド社長でありながらグリーンフェスティバルには初参加。「社長という立場なのですが、初めてなので勝手が分からずというか、同じよう



完成したステップアートとエド・アドの社員たち

に何も分からない学生たちと一緒に活動をするので、うまく引つ張っていきけるか不安がありました」と語った。

マス・コミュニケーション学科の井上二郎教授は「全員はじめてだが、素晴らしいと思います。みんな一生懸命やってくれて、100点満点の120点です」と学生の働きぶりを評価した。

5月4日のイベント当日は、天気にも恵まれ多くの人々が訪れた。ステップアートをを見て興奮する子どもたちの姿や、親子で間違い探しをする姿が見られた。子どもたちが「難しい」と話しながら一生懸命に解いている姿が印象的だった。

エド・アドはマス・コミュニケーション学科の学生が運営し、主に流山市内のイベントへの協力や、学園祭のPR活動などを行っている。



隙間のないように貼っていく



間違い探しのプリントを配布



間違い探しに参加するご家族